

令和2年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業

# モデル施設の概要

## 令和2年6月モデル施設応募時の施設概要



施設名	ベストライフケア株式会社 介護複合施設ひばり
	筑豊地域
入所定員	通所介護(定員49名), 住宅型有料老人ホーム(43床)
平均要介護度	2.38
介護職員数	28名
取り組み開始時期	令和2年8月～
開始当初の福祉用具環境	ベッド: 45台(電動ベッド38台、手動ベッド7台) 車いす: 標準型車いす(3台), 跳ね上げ式車いす(26台), リクライニング車いす(2台), ティルト・リクライニング車いす(2台) スライディングシート: 4枚 スライディングボード: 3枚 スライディンググローブ: 19組 リフト: 1台 スタンディングリフト: 1台
開始当初の職場環境	必要に応じて体に負担がかかる業務は改善するように努める体制ができているが、全職員の徹底は行えていない点があった。
腰痛者の割合	71%

法人グループ内から、通所介護と住宅型有料老人ホームの2施設でチームを結成。職員には、抱え上げない介護技術習得者が4人いる。今回は、マネジメントについて学び、施設への定着を目指しました。

ベストグループ周辺施設状況



施設名	社会福祉法人内野会 特別養護老人ホーム 本陣園
	筑豊地域
入所定員	50名 ショートステイ 10名
平均要介護度	3.8
介護職員数	35名
取り組み開始時期	令和2年8月～
開始当初の福祉用具環境	電動ベッド: 60台 手動ベッド0台 車いす: 標準型車いす(30台), 跳ね上げ式車いす(10台), リクライニング車いす(13台), ティルト・リクライニング車いす(8台) スライディングシート: 4枚 スライディングボード: 4枚 スライディンググローブ: 14組 リフト: 2台 スタンディングリフト: 0台
開始当初の職場環境	一人での抱え上げは実施しておらず、2人介助で低減策はとれていたが、腰痛者がでている状態であった。教育体制について課題もあり、腰痛予防のための身体の使い方から周知をしていく必要があった。
腰痛者の割合	60%

ユニット型特別養護老人ホームとして、新規にノーリフティングケアに挑戦。最近、スタッフから、「もう以前のケアには戻れません!」との声も聴かれるようになり、「コロナで大変な中、頑張っって本当に良かった!」と。



施設名	社会福祉法人 桂川福祉会 特別養護老人ホーム 明日香園
<b>筑豊地域</b>	
入所定員	定員50名
平均要介護度	4.2
介護職員数	25名
取り組み開始時期	平成30年12月～（3年目）
開始当初の福祉用具環境	ベッド：68台（うち電動ベッド30台、手動ベッド38台） 車いす：標準型車いす（12台）、跳ね上げ式車いす（19台）、 リクライニング車いす（7台）、 ティルト・リクライニング車いす（9台） スライディングシート：15枚 スライディングボード：ロング2枚、ショート6枚 スライディンググローブ：11組 リフト：3台 スタンディングリフト：1台
開始当初の職場環境	職場内での勉強会を定期的に行い、ノーリフティングに対する情報を適宜共有しており、福祉用具の使用に関しては定着できていたが、使用時の不良姿勢や、その他介助時の環境調整などが不十分なことがあった。
腰痛者の割合	44.4%

先行モデル施設 取り組み3年目。  
施設内には、抱え上げない介護技術習得者が既に4人いる。  
なちゅは福岡によるマネジメント研修にて先行取り組み、そして、今回の福岡県事業で体制の強化ができました。



令和2年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業  
筑後地区 モデル施設

特別養護老人ホーム 宝生園  
特別養護老人ホーム 常照苑 くすのき通り  
特別養護老人ホーム 桜の丘

令和3年1月26日 クローバープラザ

施設名 筑後地域	社会福祉法人 光輪会 特別養護老人ホーム 常照苑 くすのき通り
入所定員	入所定員：30名
平均要介護度	3.7
介護職員数	20名
取り組み開始時期	令和2年8月～
開始当初の福祉用具環境	ベッド：30台（電動ベッド30台、手動ベッド0台） 車いす：標準型（0台）、跳ね上げ式車いす（16台） リクライニング車いす（7台）、ティルト・リクライニング車いす（0台） スライディングシート：16枚 スライディングボード：4枚 スライディンググローブ：0枚 スタンディングリフト：0台 リフト：0台
開始当初の職場環境	①介助時にベッドの高さを調整していない。 ②無理な体勢で介助を行っている。 ③抱えている場面が存在する。
腰痛者の割合	58%

### 新規モデル施設として挑戦

介護職員20人の中には、インドネシアからのEPA 介護福祉士候補者が5人含まれています。ノーリフティングケアも職員一丸となって取り組みました。そして、腰痛の軽減率は、12のモデル施設の中でNo. 1の成果でした。



施設名 筑後地域	社会福祉法人 桜園 特別養護老人ホーム 桜の丘
入所定員	入所定員：50名 短期入所定員：20床
平均要介護度	4.01
介護職員数	21名
取り組み開始時期	令和2年8月～
開始当初の福祉用具環境	ベッド：70台（電動ベッド35台、手動ベッド35台） 車いす：標準型（3台）、跳ね上げ式車いす（39台）、 リクライニング車いす（4台）、ティルト・リクライニング車いす（0台） スライディングシート：11枚 スライディングボード：9枚 スライディンググローブ：2枚 スタンディングリフト：0台 リフト：2台
開始当初の職場環境	腰痛発生要因として、夜勤から離床介助が続くときや、ソファから車いすへ移乗するとき、更衣やおむつ交換後などです。
腰痛者の割合	62%

### 新規モデル施設として挑戦。

5か月間、委員会のチームワークで頑張りました。「毎回大変でした。でも、達成感を実感することができました。そして、福祉用具の正しい使い方を学びました。取り組んで本当に良かったです！」と。



施設名	社会福祉法人 三井福祉会 ・特別養護老人ホーム宝生園
筑後地域	
入所定員	特別養護老人ホーム 宝生園（多床室ユニット型） 入所定員：50床 個室ユニット型 入所定員：20床 ショートステイ 入所定員：13床
平均要介護度	3.9
介護職員数	21名
取り組み開始時期	平成30年10月～（3年目）
開始当初の福祉用具環境	ベッド：52台（電動ベッド38台 手動ベッド14台） 車いす：標準型（28台），跳ね上げ式車いす（8台）， リクライニング車いす（17台），ティルト・リクライニング車いす（12台） スライディングシート：6枚 スライディングボード：3枚 スライディンググローブ：21枚 スタンディングリフト：2台 リフト：2台
開始当初の職場環境	①介護時にベッドの高さを調整していない。 ②無理な体勢で介助を行っている。 ③抱えている場面が存在する。
腰痛者の割合	56%

先行モデル施設 取り組み3年目。  
なちゅは福岡によるマネジメント研修受講後  
に、今回の福岡県事業でさらに体制の強化。  
これからは地域に向けて仲間づくりにも取り  
組めます。



令和2年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業  
福岡地区 モデル施設

特別養護老人ホーム ねむのき  
介護老人保健施設 さわら老健センター  
特別養護老人ホーム 仙寿苑・はまぼう

令和2年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業  
モデル施設 実践報告会

福岡県ノーリフティングケア  
普及促進事業2年目に向けて  
「これから目指す方向性」  
講師 (一社) ナチュラハートフルケアネットワーク 代表理事 下元 佳子氏 (理学療法士)

令和3年1月26日 クローバープラザ

施設名	社会医療法人 福西会 さわら老健センター
	福岡地域
入所定員	入所定員：100名
平均要介護度	2.9
介護職員数	49名
取り組み開始時期	令和2年8月～
開始当初の福祉用具環境	ベッド：100台（電動ベッド42台、手動ベッド58台） 車いす：標準型車いす（23台）、跳ね上げ式車いす（43台） リクライニング車いす（0台）、ティルト・リクライニング車いす（13台） スライディングシート：0枚 スライディングボード：1枚 スライディンググローブ：0枚 リフト：0台
開始当初の職場環境	入浴支援、排泄支援、移乗支援などで中腰姿勢により腰痛の発生要因がある。 また、職員間の意識や技術の差がある
腰痛者の割合	59%

新規モデル施設として挑戦、今回は、唯一の老健施設です。法人内には医療や介護の施設が多くある中で、一番先に挑戦。取り組みの中盤からは、スタッフが主体的に頑張る姿が印象的でした。



施設名	社会福祉法人 二丈福祉会 ・特別養護老人ホーム 仙寿苑 ・地域密着型特別養護老人ホーム はまぼう
	福岡地域
入所定員	特別養護老人ホーム 仙寿苑（従来型） 入所定員：50名 地域密着型特別養護老人ホーム はまぼう ユニット型 入所定員：29名
平均要介護度	仙寿苑 4.2 はまぼう 4.2
介護職員数	仙寿苑 24名 看・介護職員数 30名 ， はまぼう 18名（看・介護職員数 20名）
取り組み開始時期	令和2年8月～
開始当初の福祉用具環境 2施設合計	ベッド：79台（電動） 車いす：標準型車いす（40台）、跳ね上げ式車いす（10台） リクライニング車いす（14台）、ティルト・リクライニング車いす（5台） スライディングシート：5枚 スライディングボード：8枚 スライディンググローブ：40枚 リフト：0台
開始当初の職場環境	入浴支援、排泄支援、移乗支援などに腰痛の発生要因がある。
腰痛者の割合	仙寿苑 58% はまぼう47%

法人内の2つの特別養護老人ホームが共に協力して取り組んだケースです。隣接する施設、新しいことにはいつも共に取り組んでいます。お互いに助け合いながら頑張りました。



施設名 <b>福岡地域</b>	社会福祉法人 那珂川福祉会 特別養護老人ホーム ねむのき
入所定員	入所定員：60名
平均要介護度	4.2
介護職員数	23名
取り組み開始時期	平成30年9月～（3年目）
開始当初の福祉用具環境	ベッド：61台（電動） 車いす：標準型（20台）、跳ね上げ式車いす（13台）、リクライニング車いす（2台） ティルト・リクライニング車いす（13台） スライディングシート：16枚 スライディングボード：3枚 スライディンググローブ：9枚 床走行式リフト：6台、スタンディングリフト（3台）
開始当初の職場環境	県事業以前から、ノーリフティングケアを行い、就業前の体操、安定感のある靴の着用、福利用具（リフト・ボード・シート等）の活用など行っていたが、入浴時、おむつ交換時等の不良姿勢、トイレ誘導時の介護などの課題が残っている状態。
腰痛者の割合	30%

先行モデル施設  
抱え上げない介護技術習得者1名  
なちゅは福岡によるマネジメント研修受講、その後さらに体制の強化ができました。  
リフト使用は当たり前。  
これからの課題は、困難事例とケアの質を考える中でのノーリフティングケアに取り組みます。



施設名	社会福祉法人 薫風会 特別養護老人ホーム 風の家
北九州地域	
入所定員	入所定員：150名 ユニット型（16ユニット）
平均要介護度	3.5
介護職員数	85名
取り組み開始時期	令和2年8月～
開始当初の福祉用具環境	ベッド：電動ベッド 150台 車いす：標準型車いす（61台）、跳ね上げ式車いす（46台） リクライニング車いす（11台）、ティルト・リクライニング車いす（7台） スライディングシート：4枚 スライディングボード：8枚 スライディンググローブ：1枚 スタンディングリフト：0台 リフト：0台
開始当初の職場環境	ノーリフティングケアに取り組むのは初めての状況で、福祉用具・リフトなどの導入もこれからであった。
腰痛者の割合	74%

### 新規モデル施設

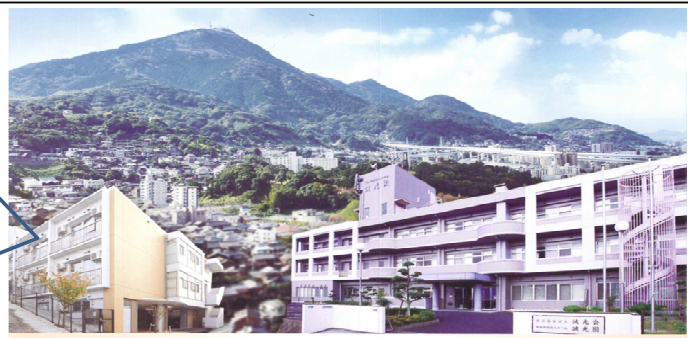
大規模施設としての取り組み例です。

大所帯ならではの情報共有の苦労など、まずは、組織としての体制を整えることからスタート。一つひとつのマネジメント教育をチーム全員で、取り組みました。これからの課題は、全職員がノーリフティングケアに向けて一つになること。



施設名	社会福祉法人 誠光会 特別養護老人ホーム 誠光園
北九州地域	
入所定員	60名
平均要介護度	3.9
介護職員数	27名
取り組み開始時期	平成31年より取り組み開始（2年目）
開始当初の福祉用具環境	ベッド：電動ベッド 60台 車いす：モジュール型 70台、ティルト・リクライニング型 29台 スライディングシート：30枚 スライディンググローブ：30枚 スライディングボード：11枚（フレックスボード含む） スタンディングリフト：3台 リフト：3台 浴室脱衣所に櫓型リフト 情報共有・ケア管理ソフト導入・活用中
開始当初の職場環境	必要な福祉用具は整っているが、中腰姿勢でのケアなどによる腰痛が減少していない、また介助中に発生したと思われる利用者のケガや内出血が起こっていた。
腰痛者の割合	59%

新規モデル施設ですが、以前からコツコツと取り組んでいました。しかし、挫折も経験・・・。  
今度こそはと再出発。そして、できなかった問題点に気づき、体制の基盤が整いました。





施設名	社会福祉法人 ひさの里 ・特別養護老人ホームふじの木園
	北九州地域
入所定員	70床 個室ユニット型
平均要介護度	3.99
介護職員数	49名
取り組み開始時期	平成28年年7月ごろ（5年目）
開始当初の福祉用具環境	ベッド：電動ベッド 89台 車いす：標準型車いす 35台、モジュール型車いす 20台、 リクライニング型 3台、ティルト・リクライニング型27台 スライディングボード：7枚 スライディングシート：45枚 スライディンググローブ：45枚 スタンディングリフト：7台 床走行リフト：17台 各浴室に浴室用リフト完備
開始当初の職場環境	ノーリフティングケア取り組み開始後腰痛は激減し新規の腰痛の発生はない。 現在必要な福祉用具は配置しており、職員のノーリフティングケア教育が定期的になされている。 また個別アセスメントとプランニング、その定期的な見直しも行なっている。
腰痛者の割合	27%

先行モデル施設 5年目  
先輩施設としてモデル施設をリードしていただきました。そして、この事業への挑戦はこれからも続きます。



令和2年度 福岡県ノーリフティングケア普及促進事業

## 取り組みの概要

研修日程・教育内容・講師紹介

## 令和2年度ノーリフティングケア普及促進事業 研修日程一覧

	8月 1回目	9月 2回目	10月 3回目	10月 フォロー①	11月 4回目	12月 5回目	12月 フォロー②	1月 フォロー③
筑豊地域	8月3日 月	9月2日 水	10月2日 金	10月19日 月	11月4日 水	12月4日 金	12月17日 木	1月6日 水
筑後地域	8月7日 金	9月4日 金	10月8日 木	10月23日 金	11月6日 金	12月8日 火	12月21日 月	1月8日 金
福岡地域	8月11日 火	9月8日 火	10月9日 金	10月27日 火	11月10日 火	12月9日 水	12月22日 火	1月5日 火
北九州 地域	8月12日 水	9月11日 金	10月13日 火	10月29日 木	11月13日 金	12月15日 火	12月24日 木	1月7日 水
	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン	オンライン
研修時間は、1回目から5回目までは、10時～17時まで。(12時～13時休憩) *オンライン環境の事前確認は9時30分から行います。 3回のフォローアップは、直前に各地域の施設と調整								
				<b>午前の部 モデル施設交流会</b> <b>午後の部 管理者向け導入研修会</b> 会場 アクロス福岡国際会議場 動画配信実施				<b>実践報告会</b> 会場 クローバープラザ クローバーホール 動画配信実施
全体参加研修	10月5日 月		午前 各モデル施設2名参加			1月26日 火		
	10月5日 月		午後 定員100名			定員100名		

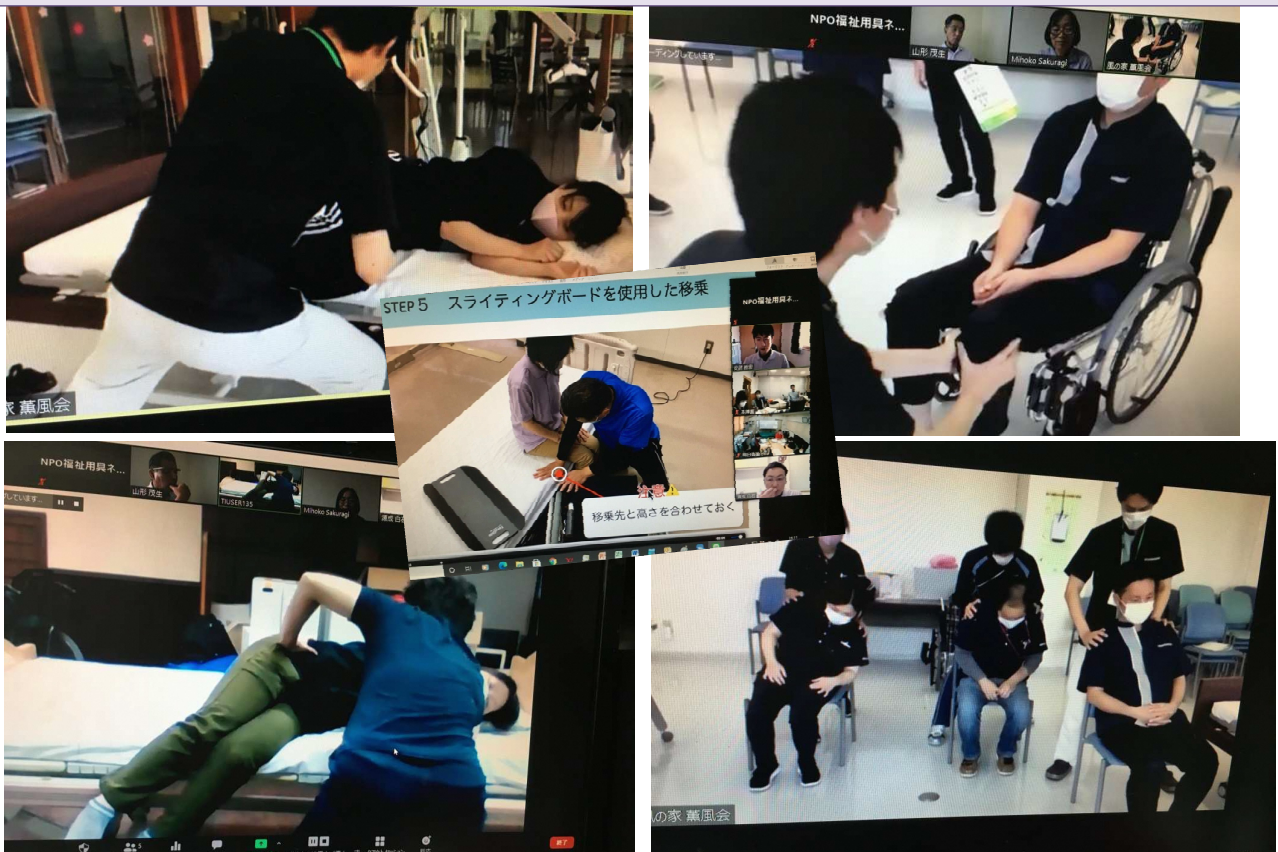
### オンラインによるマネジメント研修の教育内容

	時期	マネジメントワーク					動画をもとに 実技の確認
		委員会	対象者の プランニング	環境整備	職員の 健康管理	教育	
第1回目	8月	腰痛予防対策委員会の立ち上げ手法	リスク把握表の記入調査手法 対応すべき優先度の高い対象者の把握	職場環境の調整の手法 現状の環境把握	腰痛調査手法 腰痛調査の結果の周知	必要性と目的の共有	
第2回目	9月	リスクマネジメントの実践手順の確認	優先順位の高い対象者へのプランの実行とその評価	福祉用具の管理方法	腰痛調査の分析とリスクの高い職員への対応策の検討	基本的な動きのサポート	身体の使い方 基本の動きのサポート
第3回目	10月	組織のリスクマネジメントの体制づくり	全対象者のプランの見直しと環境整備		ケアプランをもとに必要な福祉用具の抽出	対策後のモニタリング 全ての職員への対応策の検討、実施	
第4回目	11月			移乗技術 ボード 移乗技術 リフト	移乗 ボード・リフト・スタンディングリフトの使い方		
第5回目	12月	全体計画の進捗確認と今後半年間の計画立案					
第6回目	10月 第7回目 12月 第8回目	福岡・北九州・筑豊・筑後地域をフォローアップを目的として、各施設への個別対応（解からないこと・困りごと）をオンラインにて実施。施設間の情報交換の機会として、意見交換会を2回開催（10月・12月）					

# オンライン研修のようす



# オンライン研修のようす (実技研修)

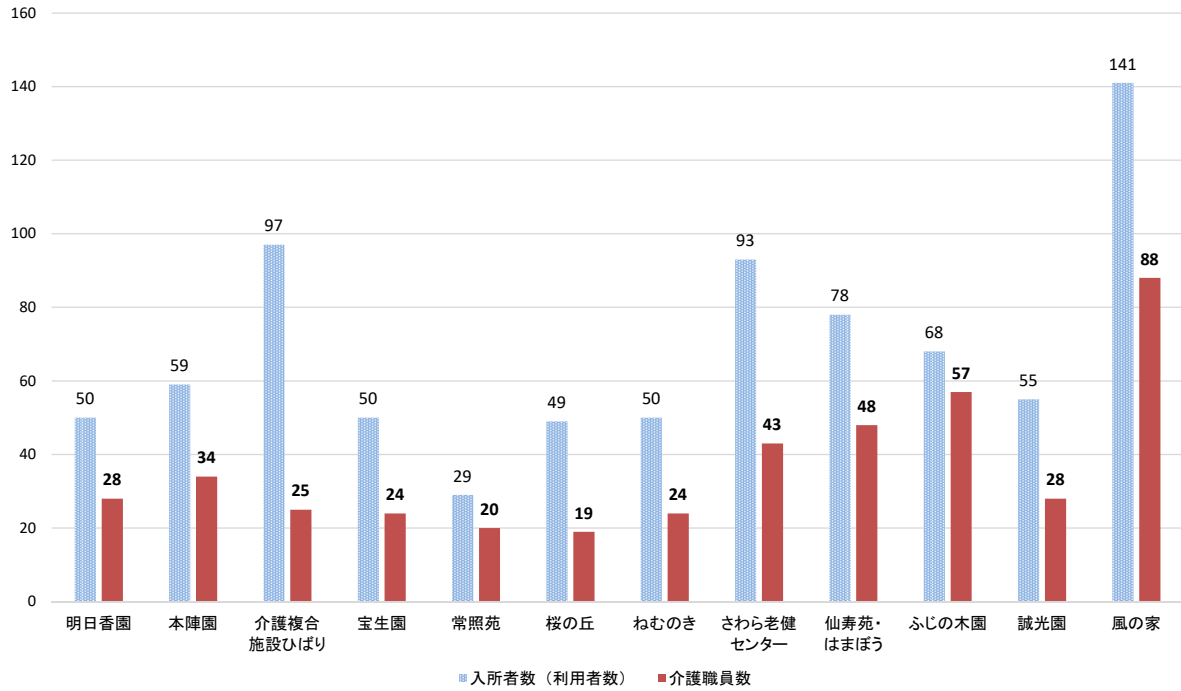


## 担当講師の紹介

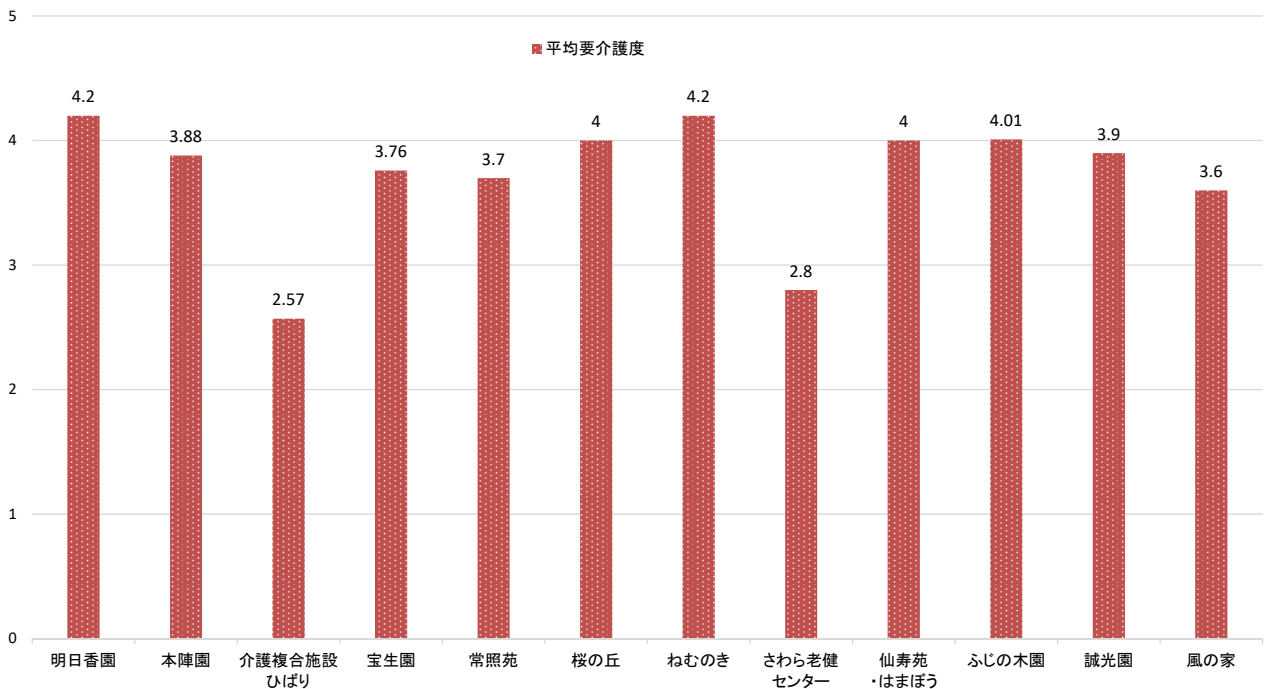
氏名	講師の所属	資格	
<b>主担当 筑後地域</b> <b>副担当 北九州地域</b>  <b>山形 茂生</b> (やまがた しげき)	<ul style="list-style-type: none"> <li>元 別府リハビリテーションセンター勤務</li> <li>現在、コネクトリハビリテーション代表</li> <li>NPO福祉用具ネット理事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士</li> <li>福祉用具プランナー</li> <li>リフトリーダー</li> </ul>	
<b>主担当 北九州地域</b> <b>副担当 福岡地域</b>  <b>櫻木 美穂子</b> (さくらぎ みほこ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>福祉用具プラザ北九州</li> <li>一般社団法人 ナチュラルハートフルケアネットワーク福岡 代表 兼任</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士</li> <li>日本ノーリフト®協会ノーリフトケアコーディネーター</li> <li>福祉用具プランナー</li> <li>リフトリーダー</li> </ul>	
<b>主担当 福岡地域</b> <b>副担当 筑豊地域</b>  <b>白石 源成</b> (しらいし もとなり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉法人ひさの里</li> <li>特別養護老人ホーム ふじの木園</li> <li>一般社団法人 ナチュラルハートフルケアネットワーク福岡 理事</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士 介護福祉士</li> <li>日本ノーリフト®協会 ノーリフトケアコーディネーター</li> </ul>	
<b>主担当 筑豊地域</b> <b>副担当 筑後地域</b>  <b>安武 哲宏</b> (やすたけ てつひろ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>元、戸畑リハビリテーション病院リハビリテーション科勤務</li> <li>一般社団法人 ナチュラルハートフルケアネットワーク (高知県)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業療法士</li> <li>日本ノーリフト®協会 ノーリフトケアコーディネーター</li> </ul>	

## モデル施設の現況及び取組結果

## 入所者数(利用者数)と介護職員数 (参考)

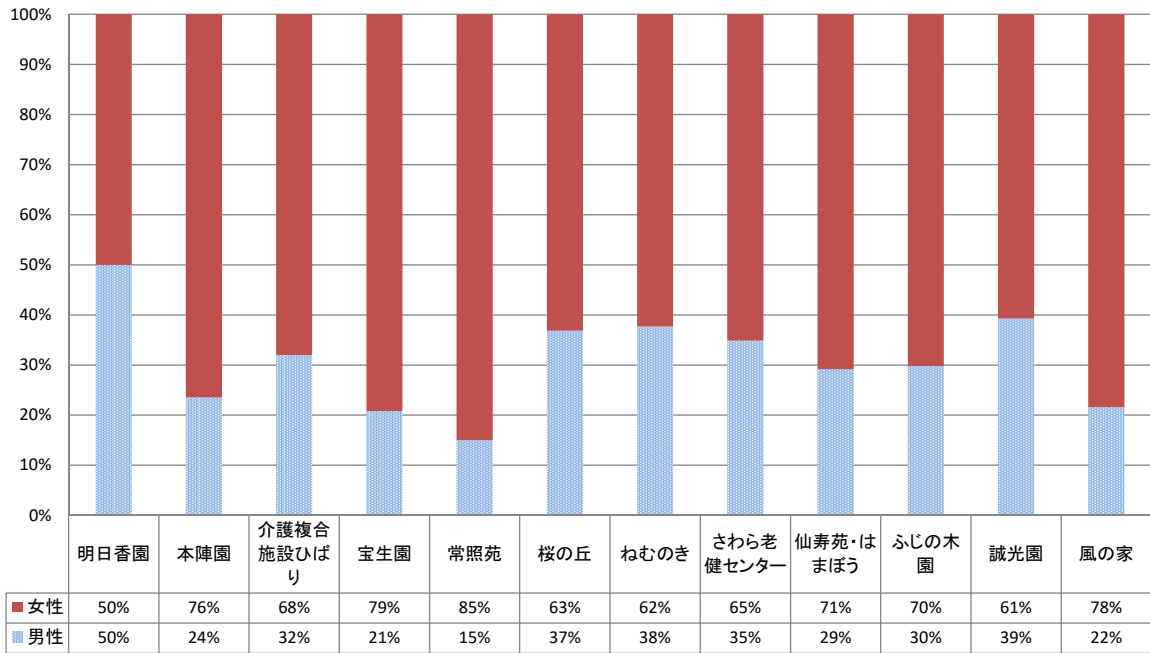


## 入所者の平均要介護度



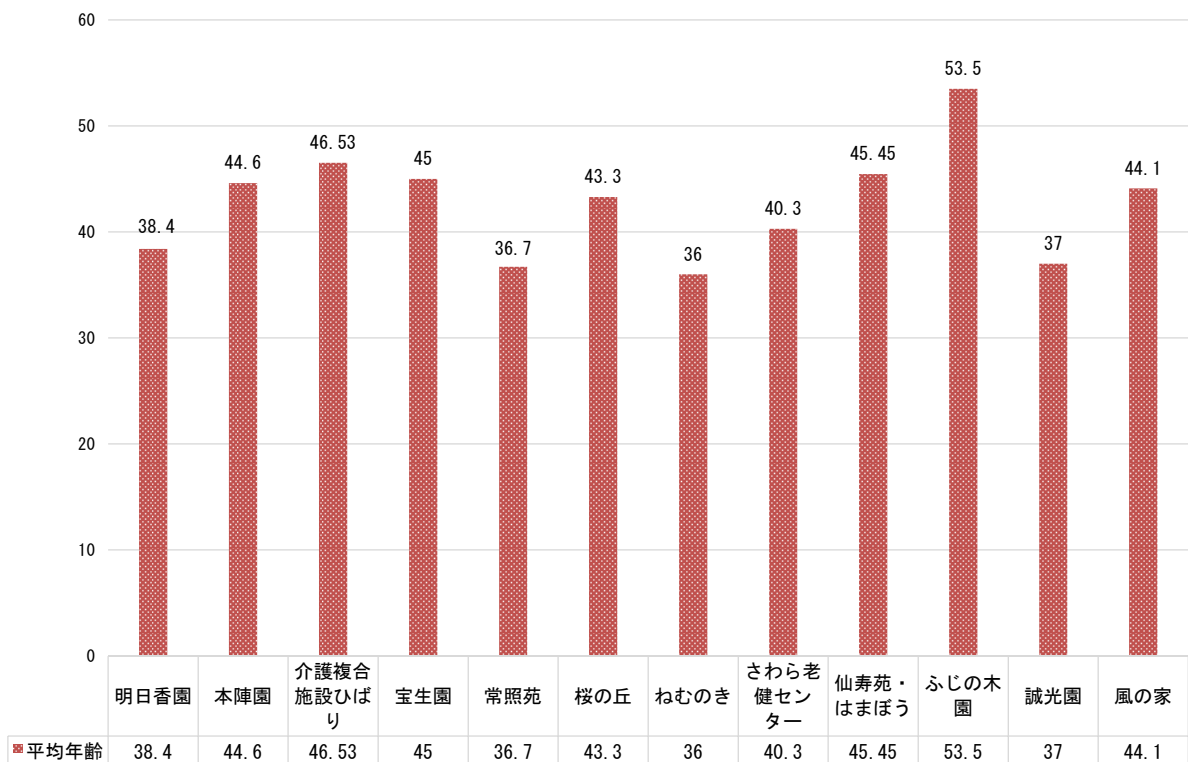
通所サービスを含む「介護複合施設ひばり」及び介護老人保健施設である「さわら老健センター」を除いた、介護老人福祉施設の平均要介護度は3.6～4.2であり、全国平均の3.969と同程度である。

## 介護職員の性別の割合



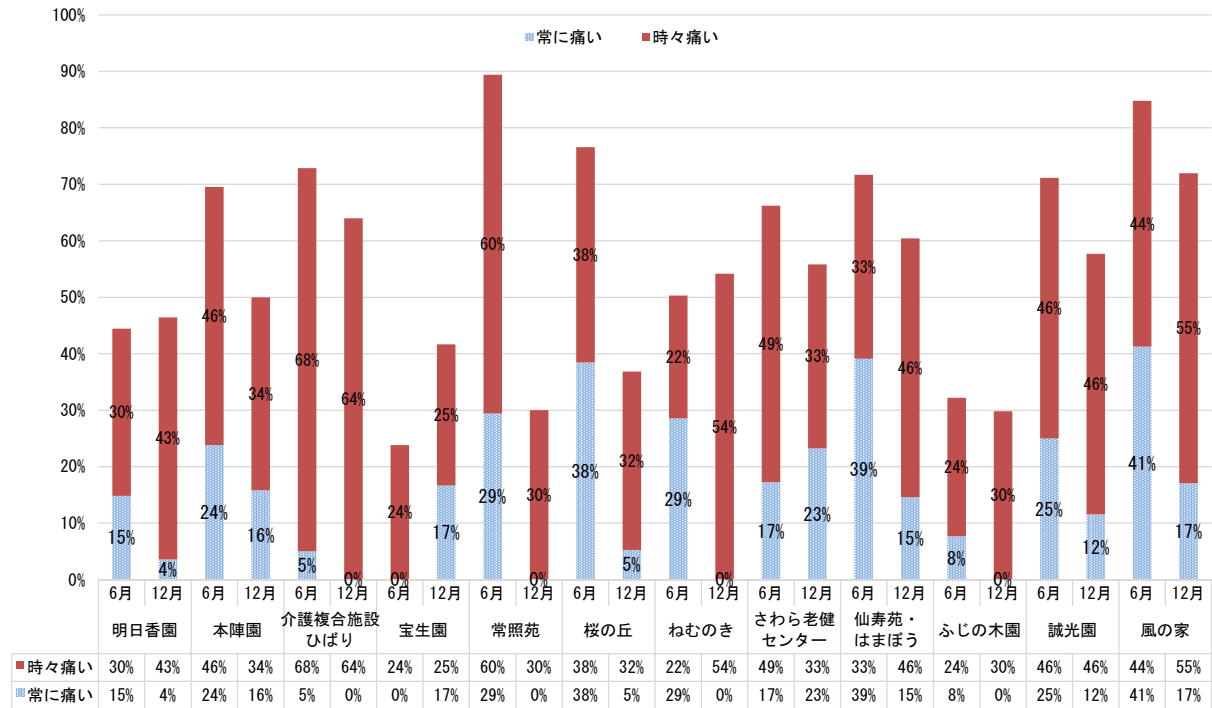
モデル施設における介護職員の性別の割合は、女性が50%～85%、男性が15%～50%であり、全国における介護職員の性別の割合同様、女性が多い傾向にある。

## 介護職員の平均年齢



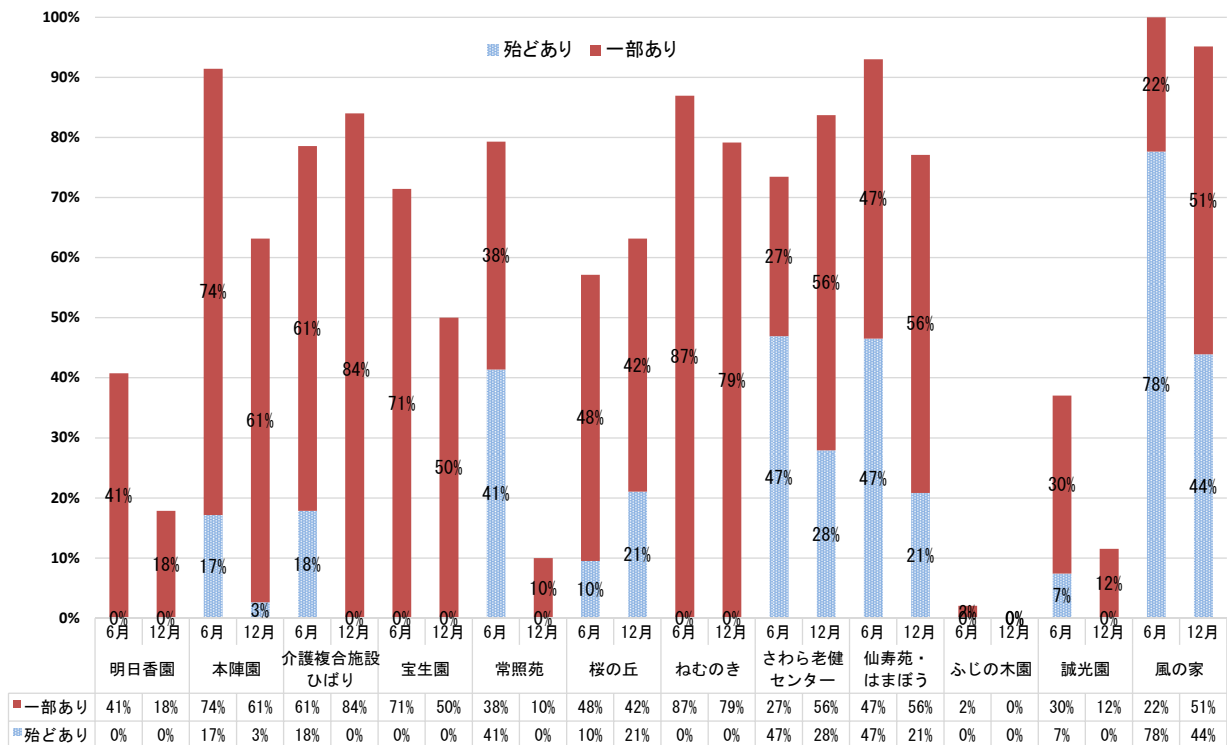
モデル施設の全介護職員の平均年齢は42.57歳であり、全国平均の46歳を下回っている。

## 腰痛の変化



腰痛調査の結果によると、腰痛保有者の割合は概ね減少傾向にあり、最大で60%減少した。また、腰痛が増えている施設についても、「常に痛い」が減少し「時々痛い」が増加している施設が多く、腰痛発生の頻度が減少傾向にある。腰痛保有者が増加し、発生の頻度も減少していない施設については、報告の中で分析を行っている

## 持ち上げや抱え上げ介助の変化



持ち上げや抱え上げ介助の実施率は減少傾向にあり、実施率が増加している施設についても、「殆どあり」が減少し「一部あり」が増加している場合が多く、実施の頻度が減少傾向にある。しかし、取組み期間中に困難事例に直面するなど、入居者の身体状況に合わせて、やむを得ず持ち上げや抱え上げ介助を実施した影響などにより、実施率が増加し、かつ、頻度も増加しているケースが見受けられた。